

見どころスポット

鳥海山ろく線（おばこ号）

由利高原鉄道は、羽後本荘から矢島まで23*の路線で霊峰鳥海山を眺めながら子吉川上流にむかってゆっくり走ります。おばこがアテンダントを務める夢あるローカル線。終着矢島の駅舎がやさしく出迎えてくれるはずです。



伝説の落人集落、百宅の里

旧鳥海町の直根^{ひたね}から杉峠を越すと桃源郷のような百宅^{ももやけ}盆地が忽然と現れます。ここは平家の落人集落ともいわれ、マタギの里としても有名です。標高400*の高原地帯、鳥海山の麓には真っ白な蕎麦畑が広がっています。はるか昔、弘法大師が修行を積んだという窟（弘法平）もあり、歴史の古さを偲ばせます。



玉田溪谷と法体の滝^{ほったい}

日本の滝百選のひとつ「法体の滝」は、上流から一ノ滝、二ノ滝、三ノ滝と続く、落差合計57.4*の名瀑です。その法体の滝上流部が玉田溪谷で、溪谷沿いの散策は、上流の手代林道から始めます。そこには洞谷の大甕穴をはじめ、数多くの甕穴が見られ、一ノ滝左岸の岩には1821年、ここを見物に訪れた矢島の9代藩主、生駒親章公の筆になる「滝不動」の文字が見られます。歩行時間は約1時間です。

筧子の里歩き（上筧子字赤館^{じねご}）

本荘から雄勝（院内銀山）や山形県真室川に通じる矢島街道の沿道筧子^{じねご}地区には、中世の城館跡がいくつかあります。道の駅・鳥海郷から^{ひのこ}丁川方向に少し入ったあたり、朝日森（476m）からの丘陵外れにある赤館は戦国時代の悲しい物語を秘めています。矢島領主だった大井五郎満安が討たれたあと、家臣の金子安倍太郎が息女鶴姫を守り、赤館に立てこもって防戦したがついに戦死したという、その墓が稲田の中にあります。



筧子の慈音寺

上筧子字石神にある曹洞宗のお寺です。金子安倍太郎の菩提寺で、矢島龍源寺の末寺となっています。最近まで寺の周囲に石垣が巡らされ、山門の前には土橋や水濠跡などがありました。かつては城館として構築された珍しい寺院です。特に石垣積みは「重箱積み」という特異な方法でなされ、中世後期の貴重な遺構とされています。



砂子の大池^{まなご}

最上境にある^{こしきやま}甕山（男甕山と女甕山）の麓、かつては甕川の最奥の集落であった砂子入口から甕峠に通じる山道の途中に秘沼、大池があります。標高570mにある堰止湖ですが、天然杉とブナ自然林に囲まれた空間は静寂そのもので、大鯉をはじめ、フナやイワナなどが生息しています。

殿様街道、甕峠の山道^{せいろ}

米を蒸す^{せいろ}蒸籠、つまり甕を伏せたような険しい二つの山が男甕、女甕といわれる峻峰があります。その中腹を昔の矢島街道が通っていました。矢島藩主や亀田、本荘藩主が参勤交代に利用した峠越えの道です。うっそうとした森に覆われた街道は、最上側に女甕の大カツラやきれいなブナの二次林が見られます。



石窯焼きのピザづくり体験

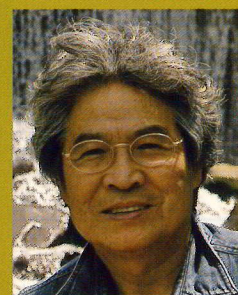
1日目の昼食は、特製弁当のほかに石窯焼きのピザづくり体験を行います。指導してくださる佐藤博栄さんの畑の野菜や、山で採れるキノコなどをトッピングして楽しめます。

昼食（1日目）

映画「釣りキチ三平」のスタッフ用ロケ弁当を作った料理名人、真坂愛子さんの特製「鳥海ぶらぶら弁当」を用意します。

昼食（2日目）

甕峠に向かう途中、山の中で食べるおにぎりとなります。思いがけない中身が詰まっているはず。楽しみにしてください。



藤原優太郎・略歴

オールラウンド野外活動団体「あきた山の學校」主宰。フリーライター。秋田市在住。登山をはじめ、東北各地の峠や街道、自然に精通。山村の地理や歴史に詳しく、各種探訪会のガイドを務め、一般にあまり知られていない多くの隠れスポットを案内しています。CNA 秋田ケーブルテレビの人気番組「ネイチャーウォーク」に7年前からレギュラー出演し、自然や歴史を紹介して評判を呼んでいます。